

本校の多忙化改善に向けた計画

このところ、学校現場が抱える広範で膨大な職務や諸課題により、教員の多忙化が取り沙汰されるようになってきました。そのため、教員が子供と直接関わる時間が大幅に少なくなっています。このような現状を改善すべく、教育委員会の指導の下、各校で設定した「多忙化改善計画」に基づき、わずかずつでも教師が時間的にも精神的にもゆとりをもって子供と向き合えるようにしていきたいと考えております。

子供一人一人と接する機会が増すことにより、教員としての本来的な責務を果たし、教育の質を高めることに繋がるものと確信しております。つきましては、保護者の皆様にもご理解とご協力をお願いいたします。

項 目	本校の現状と課題	H29年度に実施する内容、H30年度に向けて検討する内容
会議等の 効率化	毎月実施の職員会議は資料収集や印刷等の効率化を図り、紙媒体での資料ではなく、PDFの資料を作成し、PCによる閲覧での会議を行っている。	①H29年度は、職員会議資料だけではなく、校内研究会等においても、できるだけPDFの資料を作成し、PCによる閲覧を行い、資料収集や印刷等の効率化を図る。 ②職員会議、校内研究会以外にも効率化できる会議・研究会についての運営方法について検討していく。
学校行事の 負担軽減	異学年交流などの児童会行事が盛んであり、高学年児童が主体的に活動しているが、いくつかの行事を組み合わせるなど工夫が必要である。	①H29年度は、これまで別日に実施していた異学年交流行事を同日開催に実施するなどし行事の合併や精選を行う。 ②児童会活動を含め、年間行事予定全体の見直しや行事の合併等の検討を行う。
業務の 効率化	甲府市の「マモルメール」への本校保護者の加入率が100%ではないので、加入率100%を目指す。	①「マモルメール」への保護者の加入を積極的に呼びかけることで加入率を高め、H28年度の加入率を上回ることができるようにする。 ②「マモルメール」への保護者の加入率100%を目指し、連絡網の作成及び使用をなくすことで業務負担の軽減を図る方向について検討する。
地域人材の 活用	地域人材の活用が十分ではなく、リストも整備されていない。	①教育課程のどの場面でもどのような人材が必要なかを洗い出し、人材の確保を行う。 ②地域人材の発掘と確保、及びリストの整備について検討する。
本校独自の 取り組み ①	個人や学年により差はあるものの、職員の退勤時間が遅い傾向にある。	①1ヵ月に数回、各学年で定時退勤日を設定し、設定日は定時退勤を目指す。管理職も率先して退勤を促す。 ②今年度、試験的に取り組みを実施してその成果と課題を明確にし、30年度以降の取り組みに生かす。
本校独自の 取り組み ②	個人差はあるが、年次有給休暇の取得率が低い傾向にある。	①授業に支障がないよう留意し、複数の時間休を合算し、1ヵ月に最低延べ1日の年次有給休暇の取得を管理職も含め目指す。 ②全職員、年間、最低15日以上有給休暇の完全取得について検討する。